

都立図書館在り方検討委員会最終報告（概要）

1. 図書館の役割・機能分担

	国立	都立	区市町村立
役割	・出版物の収集・保存 ・国会、行政、司法の支援 ・国民への資料提供	一般公衆の教養、調査研究、レクリエーションに資する	
対象	・国会、行政、司法 ・国民 ・国内図書館	・都民、都内学校、行政 ・都内区市町村立図書館	・地域の実情に即した きめ細かな直接サービス
特徴	・全国の図書館等への レファレンスサービス等	・調査研究に役立つ 高度・専門的レファレンスサービス等	・地域住民が身近で 利用しやすいサービス

都立図書館は **2館** で機能分担して一体的に運営

中央図書館

- 調査研究に役立つ図書館
- 重点的情報サービス
(都市・東京、ビジネス、法律、健康・医療)

多摩図書館

- 雑誌と児童・青少年資料サービス
- 子供の読書活動推進の拠点
(読書相談、学校支援、啓発資料の作成等)

2. 現状及び課題

- 《現状》
- ・入館者数：増加傾向。中央図書館は遠方からの利用もある。
 - ・レファレンス：非来館者向けオンライン利用は増加傾向。
 - ・蔵書検索：ほぼ横ばい。
 - ・利用者の要望：コレクション充実、施設・整備の改善、職員の専門知識等
 - ・非利用者の要望：新しい本、蔵書検索、オンラインサービスの充実等

都立図書館の使命「**東京の未来を拓く力となる知の集積・発信**」を果たし、**国際都市・東京を情報面から支え、都民や都政の課題解決を支援していく必要**

- 《課題》
- 1 **AI時代への対応の遅れ** --コロナ禍でDXの遅れが顕在化--
デジタルコンテンツの充実等、時代に応じたサービスにアップデートする必要
 - 2 **来館サービスへの偏重** --立地的・時間的制約から来館しにくい都民もいる--
全都民にサービスを提供するため、非来館サービスの充実が必要
 - 3 **情報の創造・発信が不十分** --調査研究が主流で他利用者との交流が未浸透--
新たな知識を創出し、発信する場所への転換が必要

3. 今後求められる都立図書館について

首都の図書館として先進的取組を実践し、全国の公立図書館のモデルへ発展

＜3つの役割を担う図書館へ＞

- 1 **デジタル技術の進展に対応したサービス**を提供する図書館
- 2 **どこでも、誰でもサービス**を享受できるインクルーシブな図書館
- 3 利用者の研究・交流を支援し、**新たな知識を生み出す**図書館

《新しい機能の検討 ～実現すべきサービスの姿～》

■ デジタル技術を駆使したサービスの充実

先端的なデジタル技術を活用しつつ、デジタルデバイドを生じさせないように発展

- * 時間的・立地的な制約等、これまでのサービスの障害を取り払う
- * 時代に合ったサービスを開発・実践するための新しい技術を取り入れる
- * 職員が専門的能力を発揮できる業務に専念する

具体的な取組例

オンラインによるレファレンスサービス、簡易な問合せの自動応答、産学官民等との共同研究、交流・発信の場づくり、先駆的サービス開発等の企画立案 等

■ デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進

今後、紙資料の出版点数の減少、デジタルコンテンツの流通拡大が予想

- * これまでのコレクションを強みとして継承・拡充しつつ、**デジタルコンテンツの収集強化**
- * 独自のコンテンツを積極的に収集し、**特色あるコレクションを構築**
- * **資料デジタル化、デジタルコンテンツ収集を推進**し、利用しやすい形で提供

具体的な取組例

デジタル資料・Webデータの収集、紙・電子資料の提供・保存及び環境整備、オープンデータの提供、リモート利用の推進、ワークショップ等成果のアーカイブ化 等

■ 東京の図書館ならではの施設・運営の追求

調査研究型図書館として高度なサービスを提供し、様々な機関や専門家と協力連携

- * 東京という立地・規模を生かした**多様な都民・団体との産学官民連携**を実施
- * 調査研究を支援する機能を一層強化しつつ、**創造・発信・交流を支援**
- * 今後求められるサービス等の実現に**必要な人材の確保・育成**

具体的な取組例

区市町村立図書館など関係機関と連携した事業展開、高度な専門性を持つ司書の育成 等